

大曲皮膚科ニュース

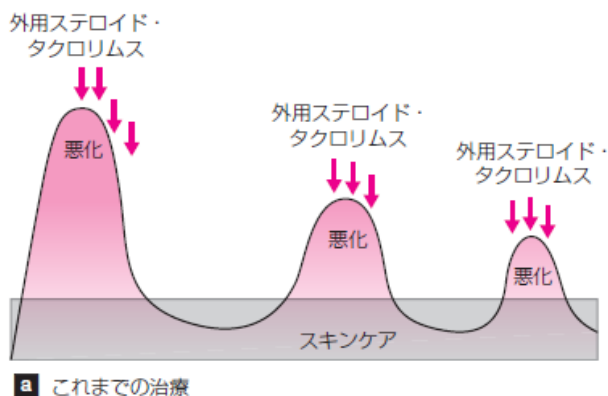
2011年4月号

良くなったら、薬は中止する？ 続ける？

かぶれや、虫刺されなど、原因がはっきりしている病気は、原因から遠ざかれば良くなるので、症状がなくなれば、薬は中止して結構です。しかし、アトピー性皮膚炎や、慢性蕁麻疹など、原因不明で、長くかかる病気に関しては、薬を使って一旦良くなったら、その薬は中止して様子を見たほうが良いのでしょうか？それとも、ついたり飲んだりする頻度を減らして、続けたほうが良いのでしょうか？

★アトピー性皮膚炎の外用薬の場合は？★

アトピー性皮膚炎の方の皮膚は、赤くて盛り上がった湿疹が治っても、皮膚の色の盛り上がり、ふけのような皮剥け、乾燥、肘や膝の裏などの色素沈着が残っていることが多いです。これらは、たとえかゆみがなくなっても、湿疹の反応が続いていることが多いのです。



最近注目されている付け薬の付け方に関する論文をご紹介します。アトピー性皮膚炎の患者さんが、ステロイド外用薬によって湿疹が良くなった後に、湿疹がない時期にも週に2-3日程度同じ強さのステロイド外用薬を塗る(図b)方法です。良くなったら、ステロイドを塗らずに保湿剤だけを塗る(図a)よりも湿疹が悪くなる頻度が減りました。しかも、ステロイドの副作用が増えなかったため、安全な治療法

であることがわかりました。また、やはりアトピー性皮膚炎に有効な、プロトピック軟膏®(タクロリムス)についても同様の効果を認められています。さらに、プロトピック軟膏®については、図bの方法の方が、湿疹が落ち着いているために、入院することがなくなったり、受診が減ったりしたために、医療費が7-30%減少すると報告されています。

★具体的な付け方は？★

ステロイド外用薬の場合は、湿疹が悪くなった時のつける回数は、1日1~数回です。

良くなったら付ける回数を徐々に減らしていきます。うまくいけば、2日に1回、3日に1回と減らせる回数まで減らします。この過程で湿疹が悪くなったら、その程度に応じて回数を増やします。

週に1-3回で維持出来たり、アトピー性皮膚炎の場合は冬・夏に悪化しますので、春・秋などに一旦中止したり、より弱いステロイドに切り替えることが出来る場合もあります。

プロトピック軟膏も同様で、湿疹が悪くなった時は1日1-2回から始めて、徐々に減らすことが出来る回数まで減らしていきます。

★じんましんの内服薬の場合は？★

1ヶ月以上原因が不明の蕁麻疹が続くものを慢性蕁麻疹と呼び、蕁麻疹患者さんの54%を占めます。長く痒み止め（抗ヒスタミン剤）の飲み薬を続けなければなりません。しかし、蕁麻疹は、多くの場合、数日薬を飲むと良くなるが多いために、薬を飲むのを中止してしまい、再発してしまうことがあります。

慢性蕁麻疹が長く続いている患者さんを3つに割り振って、それぞれ1・2・3ヶ月間、エバステル®という抗ヒスタミン剤を毎日続けて飲んで頂き、効き目があって痒みがなくなった方々だけに、その後3ヶ月間、痒くなった時だけに飲んで頂くようお願いしました。その結果、痒み・赤みとも、事前に飲んで頂いた期間が長いほど、つまり1ヶ月より2ヶ月、2ヶ月より3ヶ月の方が、再発が少なかったのです。



たします。

つまり、蕁麻疹の飲み薬は、効き目があって痒みがなくなっても、3ヶ月など、ある程度長い間飲み続けることによって、その後、薬を飲まなくなっても、再発しにくくなるのです。副作用がなくてご自分に合っている様なら、中断されず、辛抱強く続けて内服されることをお勧めいたします。

★じんましんに効く漢方薬とは？★

慢性蕁麻疹の患者さんの90%には、抗ヒスタミン剤の飲み薬がよく効きますが、残りの10%の方々は効きにくく、この場合に漢方薬が有効なことがあります。

- ・ 化膿体質や、体力中程度の場合は・・・**十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）**
- ・ 胃腸が丈夫で肩凝りがあったり、風邪で悪くなる場合は・・・**葛根湯（かっこんとう）**
- ・ ストレスで悪くなる場合は・・・**柴苓湯（さいれいとう）**
- ・ 女性で、ストレスで悪くなる場合は・・・**加味逍遥散（かみしょうようさん）**
- ・ むくみや口の渇きがある場合は・・・**茵ちん五苓散（いんちんごれいさん）**